

月刊

300



地図と学ぶ

通巻

649

2026年10月

地図中心

総特集

変わり続ける街・つくば



未来都市の成熟と揺らぎーつくばに暮らした50年	村山 祐司	3
つくば市全図	編集室	4
地図に見る昭和の筑波大学とその周辺	中西 僚太郎	10
「地図と測量の科学館」の企画展で振り返るつくばの変遷	国土地理院広報広聴室	14
つくば市中心部の変遷 1905 (明治38) 年／1968 (昭和43) 年 1976 (昭和51) 年／1983 (昭和58) 年／1989 (平成元) 年／2005 (平成17) 年	編集室	18
つくば市域の農業の移り変わり	清水 克志	24
筑波山地域ジオパーク	編集室	29
茨城県常陸国筑波郡筑波山 県社 筑波神社之景	編集室	32
筑波山のケーブルカーとロープウェイ	秋山 千央	34
TXつくばエクスプレスと筑波研究学園都市	津沢 正晴	36
鳥瞰図「筑波山と筑波鉄道」1925 (大正14) 年 土浦市立博物館蔵	編集室	40
筑波鉄道筑波線	編集室	42
「研究学園都市つくば」地図コレクション	編集室	44

新刊地形図案内 48 / 今月新刊の見どころ！・日本地図センター便り 49 / 編集後記・次号予告 50
《地図大使親書》自然災害は身近に起きる！ 石原 良純 52

月刊 地図中心

◆「地図中心」は毎月10日発行です◆

1冊 880円 (税込)

地図倶楽部

◆紙版と電子版のご購読会員

年間購読1年間 12冊

プレミアム会員

6,600円 (税・送料込)

プレミアム会員 (シニア) 満65歳以上

5,500円 (税・送料込)

◆電子版のみのご購読会員 (紙版は送付されません)

地図倶楽部会員	会費 (税込)	入会資格
一般会員	5500円	なし
一般会員 (シニア)	4400円	満65歳以上
学生会員	2200円	学生または18歳未満の方

地図倶楽部事務局
map-club@jmc.or.jp 03-3485-5417

《表紙》

20万分1地勢図「宇都宮」「水戸」「千葉」平成22年修正・「東京」平成24年要部修正 (×1.25)

第46回

地図地理検定

「ちずけん」で地図を楽しく読み・使う力を身につけよう！

地図大使
石原良純さん



2026年 **11月8日** (日)

申込締切：10月下旬 (詳細はウェブサイト) >>>



**地図地理検定
私も推薦します！**

等高線や地図記号の意味を知れば、地図に描き込まれた無限の情報が理解できます。

主催

(一財) 日本地図センター (公財) 国土地理協会

後援

国土交通省国土地理院 ほか

未来都市の成熟と揺らぎ 一つくばに暮らした50年

むらやま ゆうじ
村山 祐司

開発前の風景と若き日のつくば

私の出身地は霞ヶ浦の湖岸で、高校時代は毎日、土浦まで通学していた。つくば市誕生前の旧桜村や谷田部町は、開発が始まる以前からなじみのある土地だった。畑と雑木林が続く静かな一帯で、ここがやがて土浦の人口を上回る都市へと成長するなど、当時の私には想像もできなかった。

1977年4月、筑波大学大学院への進学を機につくばで暮らし始めた。周囲にはスーパーもなく、週末になると十数km離れた土浦まで買い出しに出かけるのが常だった。今思えば不便な暮らしだったが、何をするにも手間と時間がかかった当時の日々は、学生だったこともあり、懐かしく記憶に残っている。

当時は学園都市建設の真っ只中で、街のあちこちで工事が進み、砂埃が舞い騒音が響いていた。しかしその一方で、電柱のない広い道路、植栽が配されたペデストリアンデッキ、そして次々と姿を現す高層建築群を見上げるたびに、これまでにない「未来都市」の誕生に立ち会っているような高揚感を覚えた。職住近接を掲げ、中心部に公務員宿舍群を配置し、商店街やオフィスの立地を最小限に抑えた都市構造は、生活者を軸に据えた理想の未来都市に見えた。

1981年の常磐自動車道開通、1985年の科学万博開催、そして2005年のつくばエクスプレス(TX)開業。そうした節目を経るごとに、つくばは少しずつ姿を変え、初期に掲げられた理念もまた時代とともに形を変えていった。

成長の裏側で進む「静かな老い」

華やかな発展の陰で、近年は中心部に位置する公務員宿舍の老朽化が

進み、入居停止となった建物が目立つようになった。1970年代に一斉に大量建設されたことの代償が、半世紀を経て一気に表面化している。手入れされないまま大きく茂った樹木の間に、空き家となった宿舍が埋もれるように放置されている光景は、かつて未来都市の象徴であった街並みとはあまりにも対照的だ。頑強な高層住宅ほど解体費用がかさみ、それが再開発の足かせとなっている。

一方、1990年代に周辺部で進められた民間住宅地開発では、別の問題が顕在化している。戸建て住宅地では、若年ファミリー層が一斉に入居したため、住民の年齢構成が同調して上昇しつつある。そのうち街区全体が「一斉に歳をとる」構造に陥るかもしれない。ニュータウンがオールドタウン化するのを防ぎ、持続可能な地域社会を維持するためには、世代構成の多様性を保ち、住み替えの循環を促す構造的な仕組みが不可欠だ。都市の「新陳代謝」をいかに維持するかが、つくばの次なる課題となっている。

TXがもたらした光と影

TXの開業は、つくばと東京との時間距離だけでなく、心理的な距離も一気に縮めた。沿線の人口増加、住宅地開発、商業の活性化——いわゆる「シャワー効果」は確かに大きかった。しかし同時に、東京へ人や機能を吸い寄せる「ストロー効果」も働いた。

たとえば、開業前は大学周辺に居住していた教員も、開通後は都内や沿線市街地へ住居を移す例が見られるようになり、学生からは「先生がつかまらない」という声も聞かれるようになった。とりわけ文系研究者

にとって、会合や情報収集の多くが東京で完結するようになったことは、つくばを生活の場とする必然性を薄れさせた。

企業の支店機能も、つくばから秋葉原へ移る動きが見られる。つくば駅前の一等地に新築されたオフィスビルが、竣工から一年を経てもなお空室を抱えている現状は、その象徴と言える。TXは都市を育てる一方で、都市の「芯」を東京へ引き寄せる力も持っている。つくばが将来、研究と生活が結びついた都市としての顔を保てるのか、それとも東京圏の一郊外住宅都市へと変質していくのか——そんな危惧が頭をよぎる。

研究者の街・つくばの現在地

2010年代までのつくばでは、国際会議やシンポジウムが頻繁に開催され、外国人研究者が行き交う光景は日常の一部だった。しかしコロナ禍以降、その流れは大きく変わった。オンライン会議が主流となり、研究者の物理的な移動は縮小した。かつてよく見かけた、キャリーケースを引き、ネームカードを下げた外国人の姿も、今ではまれになった。

生命科学や情報工学といった欧米主導の分野では、時差の影響から、日本の夜間帯に重要な意思決定や協議が行われることも増えている。「夜間に飛び交うメールに即座に対応しなければ、グローバルな合意形成から取り残される」と、ある医学の研究者は漏らしていた。

研究者の視点から見ると、学術都市つくばは今、「眠らない24時間都市」という新たな性格を帯びつつある。世界的なりもト化と時差の狭間で生まれたこの姿もまた、地図には描かれない現在のつくばの一断面である。

村山 祐司

茨城県小美玉市に生まれる。土浦一高卒。筑波大学大学院修了。筑波大学の講師・准教授・教授を経て、現在名誉教授・客員研究員。元日本地理学会会長。



つくばみらい市

つくばみらい

総市

つくば駅 (赤破線枠) 周辺

CKT202411-C2-7(国土地理院:2024(令和6)年5月10日撮影)

0 1 : 40,000 2 km

0 500m

つくば市中心部の変遷 1905 (明治 38) 年



筑波山の男体山・女体山の両山頂は、つくば市です。筑波山周辺のつくば市(旧・筑波郡筑波町)と桜川市(旧・真壁郡紫尾村)の境界線は、山頂よりやや北側でカクカクしています。これは、1930(昭和5)年に境界確定が提起されて以降、戦後に裁判となり、1986(昭和61)年に最高裁での上告棄却により確定した経緯があります。

判決文によれば「町村の境界を確定するに当たっては〈中略〉江戸時代における関係町村の当該係争地域に対する支配・管理・利用等の状況を調べ、〈中略〉こ

れを基準として境界を確定すべき」として「境内地は、筑波山の北側山腹において、原判決末尾添付図面の(イ)点の三方境、(ロ)点のお迎石、(ハ)点の石重

ねに及んでいた」とされました。

「(ハ) 石重ね」は、今でも多くの小石がひっそりと積み重なっていました。(編集長・小林政能)
(参照) 最一小判昭和61・5・29 民集第40巻4号603頁



地理院地図 Vector, 2026年9月調製



筑波山神社拝殿近くにある「筑波山山頂境界確定記念碑」(2026年撮影)

昔から小石をもって登山すれば疲れずに登れて、罪や過ちも消えるといわれ、また、男体山・女体山の石を拾って神棚にあげてお祈りすれば子宝をさずかるとも信じられています。信者が持ち集めた石の山です。(解説板より)



(ハ) 石重ね (「大石重ね」とも、2026年撮影)

次号予告 2026年11月 通巻650号

毎月10日発行

地図と学ぶ月刊

地図中心 特集 鉄道とニュータウンの親密な関係

ニュータウン、高度経済成長期に大都市近郊に誕生した新しい街。ニュータウンに通じる鉄道は、新しい街のインフラとして人々の生活と地域の発展を支えました。近年、世代構成や生活スタイルの変化に伴い、ニュータウンは転機を迎えています。各地の事例を通して、鉄道とニュータウンの親密な関係を地図で深掘りします。



バックナンバーのご案内

地図中心

検索

「地図倶楽部」へのご入会をお待ちしています! 03-3485-5417(事務局)

地図中心

2026-10 通巻649号

発行 2026年10月10日

発行所 一般財団法人日本地図センター

〒153-8522

東京都目黒区青葉台4-9-6

電話 03-3485-8125

FAX 03-3485-5593

(月刊「地図中心」編集室)

メール chushin@jmc.or.jp

URL https://www.jmc.or.jp

©一般財団法人日本地図センター

定価 880円(税込)

印刷所 昭栄印刷株式会社

地図と学ぶ月刊誌



本誌の一部あるいは全部を無断で複製・複製・転載することは、法律で認められた場合を除き、禁じられています。

2026年9月号(通巻648)で、誤りがありました。訂正して、お詫び申し上げます。

P.22、タイトル

「⑤ベネズエラの「らくうな」とは?」⇒「⑤パナマの「らくうな」とは?」

第59回

地図展2026 つくば

— 常陸の先人から研究学園都市・つくばへ —

地図や空中写真で見る、つくばの過去・現在・未来

ミニ「ちずけん」

で地図を楽しく読み・使う力
を身につけられるよ！

つくば市の
時層地図

でタイムトラベル
できるよ！

入場
無料

＜特別企画＞ 地図大使 石原良純 氏 講演会開催！

10月24日(土)～11月1日(日) 9:30～16:30 *入場受付は 16:00 まで

地図と測量の科学館 (つくば市北郷1番 国土地理院内)

ご来場の方に記念地図をプレゼントします。

会場へのアクセス
はこちら⇒⇒



主催 / 地図展推進協議会 [(一財)日本地図センター (一社)全国測量設計業協会連合会 (公社)日本測量協会 (一社)地図協会 (一財)日本測量調査技術協会 (一社)地図調製技術協会 (一財)測量専門教育センター] ・ 国土交通省国土地理院

後援 / 海上保安庁 / 国土交通省関東地方整備局 / 茨城県 / 茨城県教育委員会 / つくば市 / つくば市教育委員会 / つくばみらい市 / つくばみらい市教育委員会
(一財)日本水路協会 / (公社)日本地理学会 / (一社)人文地理学会 / (一社)地理情報システム学会 / 日本地図学会 / 全国地理教育研究会 / 伊能忠敬研究会
日本土地家屋調査士会連合会 / (一社)日本ウオーキング協会 / (公社)茨城県測量・建設コンサルタント協会 / (一社)世界文化遺産地域連携会議
NPO法人全国街道交流会議 / 歴史街道推進協議会 / 筑波大学附属図書館 / (一財)茨城県科学技術振興財団 / (一社)つくば観光コンベンション協会
筑波山地域ジオパーク推進協議会 / 長久保赤水顕彰会 / NHK水戸放送局 / 茨城新聞社 / (一財)研究学園都市コミュニティケーブルサービス

協賛 / (公財)国土地理院 / (株)きもと / 共立航空撮影(株) / 国土地図(株) / (株)昭文社 / (株)ゼンリン / (株)帝国書院 / 東京カートグラフィック(株)
内外地図(株) / 中日本航空(株) / (株)武揚堂